

エリアウェーブ

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2731
 FAX 0553-20-2733

◎回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。Email: aruga-asvk@pref.yamanashi.lg.jp

子どもの学力向上のために親は？ その②

子どもが将来の夢を持つこと、そして夢に向かって頑張ることが子どもの学力向上に有効であることはよく言われるところです。その「夢を持つ」あるいは「夢に向かう」過程で、思春期の子どもたちは「自分がどんな存在であり、これからどこに向かっていくのか」ということについて、迷いや失敗を繰り返しながら模索していきます。そのとき、失敗しても再びチャレンジしていく「力」を生み出す土台となるのが「自己肯定感」です。「自分がかげがえのない存在なのだ」と思うことができる自己肯定感は、実は子どもが学校生活に適応できるかどうかにも非常に大きな影響があるといわれています。自己肯定感を持つことで、友人関係を良好に築くことができ、自分が所属する社会(たとえば学校)についても肯定的に考えることができるようになります。さらに学校を中心とした学習活動に対しても肯定的に受けとめ、主体的に取り組むことができるようになるのです。

それでは、どうすれば子どもが自己肯定感を持つことができるようになるのでしょうか？

実は、家庭における生活習慣(寝る時間、家族と話す時間、手伝いをする)が自己肯定感の形成に大きな影響があるという説があります。京都教育大学の研究者が行った調査(小学5年~中学3年対象)で、「12時までに寝ること」、「家族とよく会話をすること」、「手伝いをしていること」が自己肯定感と学校生活適応感にプラスの影響を与えている可能性が見いだされたというのです。とくに、家族とのコミュニケーションをよくとれている子どもは、自己充実感や学習意欲、進路意識さらには友人関係など、ほとんどの項目でプラスの結果が出ているとのこと。

家族とのコミュニケーションといっても、親の考えを伝えるだけであったり、「頑張りなさい!」と一方的に励ますだけでは、子どもの自己肯定感は形成されにくいでしょう。では、具体的に親はどのようなコミュニケーションを心がければよいのでしょうか？

とくに幼少期に留意したい「自己肯定感の高い子に育てる5つの方法」というものがあります。

- ①どんなときも「あなたの味方」と伝える。
- ②小さな成功体験を積み重ねて褒めてあげる。
- ③頑張り方を認めてあげる。
- ④子どもの話を真剣に聞いてあげる。
- ⑤「ありがとう」と感謝の言葉を伝える。



親が子どもにとって「安全基地」となり、常に見守っていてくれる、愛されているという安心感を子どもに持たせること、自分自身の存在についての自信、自分も人の役に立てるといった自信を持たせることが大切だということなのでしょう。

参考：栗谷初子・本間友巳「思春期の自己肯定感のあり方に影響を及ぼす要因について」

(『京都教育大学教育実践研究紀要』第10号 2009)

今井和子・波多野ミキ・堀内節子『ほめる、叱る、言葉をかける 自己肯定感の育て方』(ほんの木 2007)
 ジョン・ボウルビー『母と子のアタッチメント 心の安全基地』(医師薬出版 1993)

放課後子どもプラン指導者研修会

県放課後子どもプラン推進委員会
県教育庁社会教育課

「放課後子どもプラン」は、厚生労働省と文部科学省の連携による、放課後の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図る総合的な施策です。この「放課後子どもプラン」に携わるすべての方を対象に、子どもとの基本的なかかわり方や、配慮を要する児童への対応、具体的な遊びのプログラム等について学んでいただくと同時に、相互交流や情報交換を行うことを目的として指導者研修会が開催されました。

年間5回実施された研修会には、各市町村の放課後子どもプラン事務局の担当者や指導者、コーディネーターの皆さんが参加し、今日的な課題や研修したい内容についてアンケートをとりながら実施されました。1回目は「レクリエーションとゲーム」、2回目は「事例検討会」、3回目は「音楽活動の実際」、4回目は「楽しもう！広げよう！本の世界」、5回目は「子ども達を守るための声かけなどの防犯対策」というテーマで研修がおこなわれました。



平成27年度学生募集

山梨ことぶき勸学院

いくつになっても学ぶ幸せを実感できる『幸齢社会』の実現をめざして、山梨ことぶき勸学院では平成27年度の学生を募集します。ことぶき勸学院で学んで、新たな生きがいを見つけ、新たな縁・絆を築いて、「生涯現役」を実践しませんか。

募集要項 : 各市教育委員会または下記の出願先にあります。(山梨県のHPからもダウンロードできます)
出願期間 : 平成27年2月2日(月)～ 3月6日(金) 土日祝日を除いて午前9時～午後4時
出願先・問合せ

山梨ことぶき勸学院

甲府市東光寺 2-25-1

電話 055-233-6947

峡東教育事務所(東山梨合同庁舎) 甲州市塩山上塩後 1239-1

電話 0553-20-2731



勸学院祭合唱



勸学院祭



勸学院展

生涯学習ボランティアバンク終了

峡東教育事務所

県教育委員会では、様々な分野での経験や知識・技術をお持ちの方に生涯学習の指導者となっていただく「生涯学習ボランティアバンク」を設置・運営し、これまで多くの皆様にご利用いただきました。

この度、生涯学習の一層の振興を図るため「生涯学習ボランティアバンク」による指導者紹介事業は、本年度末をもって県生涯学習文化課の所管する「やまなしまなびネット」に移行することになりました。

つきましては、「生涯学習ボランティアバンク」を御利用の皆様方におかれましては、平成27年4月以降は「やまなしまなびネット『できる人材情報』」を御利用いただけますようお願いいたします。

※「やまなしまなびネット」ホームページアドレス <http://www.manabi.pref.yamanashi.jp/>

※問合せ先 生涯学習文化課 生涯学習企画担当 TEL055-223-1319 FAX055-223-1322

富士見小放課後子ども教室

NPO法人 学びの広場ふえふき

学びの広場ふえふきでは、年間を通して希望者に登録制で放課後の学習支援を行っています。1年生～3年生、4年生～6年生にクラスを分けて、まず宿題の支援を行い、その後、学年ごとのプリント学習をおこなっています。その日の学校の授業の復習や、理解できなかったことについてマンツーマンで学習支援をしています。わからないところをその日のうちに復習して解決するので、授業の内容が「わかる」ようになり、さらにプリントを使って各自のペースで学習することで、自主的な学習習慣を身につけることにも役立っています。



峡東地区子育て講演会

峡東地区保育所（園）保護者連合会

峡東地区保育所（園）保護者連合会では、1月18日（日）に山梨市民会館で「父親の子育て参加支援事業」と題して「子育て講演会」を開催し、約200名の未就学時と保護者が参加しました。第1部では山梨県立大学非常勤講師の新藤京子氏が「生きる力をはぐくむ子育ての力～父の力・母の力、そしてまわりの力～」と題して講演しました。新藤先生の熱のこもった「命の授業」に保護者の方々が熱心に聞き入っていました。第2部では山梨市出身の童謡歌手若林秀和氏が出演して「親子童謡コンサート」が開催され、子ども達がタンバリンを叩きながら、動物シリーズや乗物シリーズなどの童謡を一緒に歌ったり、楽しい手遊びをしたりと親子で一緒に楽しい時間を過ごしました。



主催者あいさつ



第1部 新藤京子氏の講演



第2部 親子童謡コンサート



会場の様子

「教育連携活動紹介」更新のお知らせ

峡東地域教育推進連絡協議会

峡東教育事務所ホームページに、峡東地域の保育所（園）、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教育連携活動紹介（実践一覧）（平成22年度版）を掲載していましたが、このたび管内の小学校・中学校のご協力で平成25年度・26年度の連携活動の実践をまとめることができました。つきましては、3月にホームページ内の「峡東地域教育連携活動紹介」を更新いたします。各学校の連携活動の実践を参考にさせていただいて、今後も学校間連携・異校種間連携・地域との連携をより一層盛んにしていただければと願っています。次のように掲載していますので、ぜひともご活用ください。

小学校と「保育所（園）、幼稚園、中学校、高等学校等」との連携活動、小学校と地域との連携活動
中学校と「保育所（園）、幼稚園、小学校、高等学校等」との連携活動、中学校と地域との連携活動

◇◇◇ 地域教育推進事業を振り返って ◇◇◇

本年度、峡東教育事務所では、地域教育推進業務として次のような取組を行ってきました。

- ① 峡東地域教育推進連絡協議会の運営
- ② 保幼、小、中、高、特支、大学校の連携推進
- ③ 子育て・連携・人権のための講演会の開催と「講演録・講演要旨」の発行
- ④ 子育て支援の推進
- ⑤ 中・高インターシップ事業の推進
- ⑥ 小・中学校へのキャリア教育の啓発
- ⑦ 教育相談への対応
- ⑧ 地域教育情報誌『エリアウェップ』の発行・配布
- ⑨ 「地域教育連携活動紹介」の調査とホームページ更新
- ⑩ 「あいさつ運動」の推進、生活習慣確立の推進等



これらの業務のうち主なものをあげながら、1年間を振り返ってみたいと思います。

◆ 峡東地域教育推進連絡協議会の運営

○総会 平成26年6月24日(火) 参加者52名 (山梨市民会館)

平成25年度事業報告、平成26年度役員選出・事業計画について承認されました。

○実務者会 平成27年度1月20日(火) 参加者16名 (東山梨合同庁舎内)

3回の講演会を中心に、一年間の峡地連の活動と来年度にむけての意見をいただきました。講演会と『エリアウェップ』について肯定的なご意見をいただき、また、来年度とりあげるべきテーマなどについて様々な貴重なご意見をいただきました。

◆ 子育て講演会・連携セミナー・人権のための講演会の開催

子育て講演会

平成26年6月24日(火)
山梨市民会館

「子どもは誰がそだてる？」

～親・家庭・保育所(園)・学校・行政そして地域の愛～

講師 新藤 京子 氏
(山梨県立大学講師)

参加者 147名

保幼・小・中連携セミナー

平成26年8月19日(火)
甲州市民文化会館

「子育てを地域社会の中でどのように連携させていくか」

講師 後藤 芙美子 氏
(家庭教育相談員)

*小グループでの話し合い

参加者 111名

人権のための講演会

平成26年11月18日(火)

いちのみや桃の里ふれあい文化館

「防災と人権」

～災害時にお互いの人権を守るために～

講師 軽部 妙子 氏
渡辺 聖香 氏

(NPO法人あんふぁんねっと)

参加者 117名

◆講演会・セミナーには、大学の先生やNPOなど地域で活動している方を講師にお招きしました。3回とも事後アンケートで9割以上の参加者から肯定的な評価をいただきました。もっと多くの保護者に参加してもらいたかったというご意見もありましたので、今後も周知の方法を工夫していきたいと思います。

◆連携セミナーでの小グループによる討議では、これまでの「保幼小中連携の成果と課題」を整理するとともに、「地域との連携」を話し合いの新たな柱として設けました。事後アンケートには、これらに関わる実践事例なども聞いてみたいという声がありました。

◆『エリアウェップ』においては、甲州市・山梨市・笛吹市で行われている子どもの育成や連携のイベント・教室、NPOの方々による活動、県立学校や県立産業技術短大の活動等を紹介してきました。取材に御協力いただいたおかげで、地域の皆様の活動の様子をお伝えすることができました。

◆今年度の活動について、各講演会・セミナーの「事後アンケート」、峡地連の会員対象の「活動に関するアンケート調査」を実施しました。お寄せいただいた声を基にして、来年度の活動がさらに身近で充実したものとなるようにしていきたいと思います。

本年度の地域教育情報誌『エリアウェップ』はいかがでしたでしょうか。限られた紙面ではありますが、皆様の地域教育活動の一助になれば幸いです。一年間ご愛読いただきありがとうございました